9/5(土) 長いご！倫941号です。朝夕めっきり涼しくなりました。
今が一番なんでしょうネ。今日より HP のブログにて観てやって下さい
有難よいのお気付きありましたら
一報下さいませ 楽しみにしております。

今週の倫理 941号 2015.9.5～9.11

九月のテーマ 心と形

形が先か 心が先か

私は心が先だと思います。いかがでしょうか

草丸鳳ヤホー鳥

9月度一句 "リリリと秋の夜長かの夢一夜"

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一―一九九九）のことばを掲載します。

え・古屋智子

さわやかに晴れ渡った日曜の午後、Sさんは、のんびりと昼寝をたのしんでいた。ふいにガチャンという音がしたので目をさまし、玄関に出てみると、ガラスが一枚割られている。向かいの店員が「今行った自動車ですよ」と教えてくれた。道路の小石をはねとばしたのだ。

ふいに目の前にスーツと影がさして、一台の車が停まった。二十二、三歳くらいの運転手が降りてきて、ていねいに頭を下げ、ガラスを割ったことを詫び、運転席から一枚のガラスと、ガラス切りを持ち出した。そして戸の大きさをはかると、器用な手つきで端を切り、手早くガラス戸にはめてしまった。

「実は、さきほどガラスを割ったとき、ハッとして車を停めたのです。そして一言お詫びをしようと思ったのですが、その時送っていたお客さんの乗る列車の時間がギリギリだったものですから、そのまま車を飛ばしてしまったのです」

その言葉に少しも嘘がないことがよくわかり、感激さえ覚えたのだった。「わざわざどうもありがとう」と礼をいうと、運転手は、思い出したように、「ガラスを割った石が落ちていなかったでしょうか、あったら頂きたいのです」といった。

その小石を差し出すと、大事そうにハンカチに包んで、運転手はちょっとはにかみながら、「私は幼いときに父に別れ、昨年たった一人の母もなくしました。その母は『正しく生きよ、どんな小さなことでも、良心に恥じることはするな、母は死んでも、母の魂はいつもお前のそばを離れない』といって息をひきとったのです」と話し、「この小石は、私の良心のマスコットにして大事にします」といって出ていった。

まごころは尊い。その心はおのずから、身体のどこかに現われる。「これは自分のしたことだ、すまなかった」という心がほんとうにあれば、おのずから詫びにいき、弁償をするという形に現われる。

ところが、形から入ってほんものになる場合も実に多いのである。たとえば姿勢である。姿勢をまっすぐに正しく保っておれば、心もまっすぐ正しくなる。挨拶なども形から正しく、きちんと、ていねいにするように努めていると、やがて心もそのようになってくる。

「小さなことでも、良心に恥ずるようなことはしないで」という母のさとし。これを完全に実行することはむずかしいかもしれない。だからといって、ぐずぐずと迷うべきではなかろう。いつも母の教えに従いたいと思ったとき、少々恥ずかしくとも、「ガラスを割った小石を下さいませんか」と頼んでみる。そのような行為に思いきって出たとき、いよいよ心はすっきりしてその小石が「良心のマスコット」になる。

心がもう一つはっきりしないという場合、一歩進んで形に現わすようにすると、ぐっと心がひきしまる。坐禅とかみそぎその他の行というようなものは、このようにして心を一段とひきしめることを、まず形から入っていこうとするのである。愛情はあるけれども、何もしなくてよいのだとか、念願はしているけれども、形に現わす必要はないのだとか、そうした一方的なことは原則的にはまちがいである。（『つねに活路あり』より）